

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュみらい きそがわ			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～	令和7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	26名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 22日		～	令和7年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土台型療育（こころとからだと脳）をもとに子どもたちによりよい支援を行うための話し合いや事例検討を密に行い、療育のプロとして一人ひとりに寄り添った支援の実施をしている。</li> <li>・また、プロとしての支援実施ができるよう研修参加や内容共有を行っている。</li> <li>・子どもの行動を理解し、適切に関わる為に褒め方、適切な受容の仕方、指示の出し方、問題行動への対応（ペアレントトレーニング）などの情報発信、共有を指導員間や保護者向けに行っている。</li> <li>・一人ひとりに合わせた専門的支援を積極的に実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月グループで実施されている研修への参加をするなかで気づいたことや新しい内容についての共有や検討をミーティング内で行っている。また、職員同士の知識向上や自己研鑽の場としてロールプレイの実施や外部の研修にも積極的に参加を行っている。</li> <li>・毎日支援前に行っているミーティングの中で職員全員で連携をとって専門的支援の内容を決め、よりよい支援となるようにしている。</li> <li>・氷山モデルとしての考え方や適切なデジタル端末との付き合い方、休息の提案を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より幅広い知識向上のために様々な研修への参加や過去の事例検討も再度していく。</li> <li>・子どもたちが社会の中で必要となる力が育めるよう、専門的支援の中で子どもたちの特性に合わせたソーシャルスキルトレーニング（SST）の実施をしていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の連携が速やかに取れる風通しの良い職場環境を保持するために日々の関係づくりを行っている。そのため、職員同士が楽しく関わる姿を子どもたちに見ていただく視覚的アプローチから、支援内で子どもたちの挑戦したい気持ちのきつけづくりとなるようにしている。また、それぞれの職員が得意とする分野を生かした支援実施をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談や食事時のコミュニケーションを通して職員間の関係づくりを行っている。また、関係づくりの中で互いの強みや補うことができる点に関して相互理解し、支援の中で意識しあってより良い支援になるように心掛けている。</li> <li>・支援の中での課題や困りごとについてすぐに解決できるよう、話し合いを日々行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの補うことができる点に関して知識や支援技術の共有をより深く行うために毎週のミーティングの中で今後も時間を作っていく。</li> <li>・今後も業務についての相談や進捗共有を行い、困りごとの早期解決ができるようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同グループ内で子どもたちの事業所内交流をし、相互に関わって支援実施をしていることで子どもたち自身がより広く経験が積める機会づくりを行っている。また、指導員同士の交換研修も行い、共通した視点や認識での支援ができるような環境づくりをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な支援ミーティングの中で事例検討や情報交換を行い、事業所交流の計画やイベント等の情報共有をして統一した支援の実施や向上の為に工夫を行っている。</li> <li>・交換研修の中で互いに気づいた点やよい所の共有を行い、各事業所の支援の質の向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所交流や交換研修の実施をより多く行い、支援の質の向上や交流計画の立案、発信そして相談を密に行っていく。</li> <li>・今後も引き続き支援ミーティング内で各事業所の成功事例の共有も行い、各事業所の支援に反映することで資質向上していく。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月お茶会を実施しているが、新しい参加者も増やしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き家庭が多く、参加が難しい可能性がある。</li> <li>・お茶会のなかでペアレントトレーニングをしているという情報の発信ができていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に予定表などでお茶会でのペアレントトレーニングの内容予告を発信（不定期）し、参加が検討しやすいようにしていく。</li> <li>・内容に合わせ、該当児童の保護者に直接お誘いをする等の働きかけを行う。</li> <li>・お茶会の内容についてリクエストのアンケートを実施する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年を通して避難訓練（水害、地震、火災、防犯）を行っているが避難内容が固定化し、子どもの特性に細かく考慮していなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練該当月にそれぞれの避難訓練を行う中で、実際に災害が起こった時を想定し、利用児童ごとの特性についての視点を持つ計画ができていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練時には特性を考慮し、実際に避難をした際に課題となる避難物資の使用体験や、保存食の試食、災害のイメージを視覚や触覚で体験できる機会づくり（イベント）等、療育施設としてより深掘りした避難訓練の実施をしていく。</li> </ul>
3			